

# 気軽に始める手織り

高橋 聖子

「織り」と聞くと、どんなものか思い浮かびますか。大きな機（はた）、伝統的な着物、鶴の恩返しなど色々なものが出てくると思います。そして、ほとんどの方が特別な道具を使い難しいものという印象をもっているのではないのでしょうか。

でも少し工夫をすれば編み物や裁縫のように気軽に楽しむことが出来るんです。

織りをするには、まず機（はた）が必要になります。これは経糸（たていと）の長さを揃え、必要な本数を張ることが出来ればいいので、手織り用に作られた機（はた）でなくても他のもので代用できます。

例えばダンボールを使う方法があります。ダンボールであれば加工しやすいので小さなお子様でも自分で機（はた）を作るところから楽しめます。

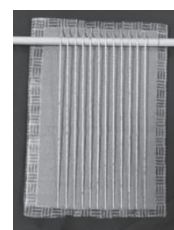
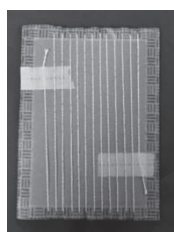
まず織りたいものの大きさを決めます。ダンボール織りの場合、コースターやランチョンマットくらいの大きさが織りやすいです。大きさが決まれば、その大きさを上下は三センチ、左右は二センチほど大きめにダンボールを切ります。上下は七ミリ間隔で切り込みを入れてください。経糸になる糸を切り込みに入れて、裏から表へ反対の切り込みに入れ、また表から裏へダンボールに巻き付けるように糸を通していきます。糸のはじまりと終わりは、どちらも裏に来るようにします。

経糸をかけることが出来たら緯糸（よこいと）の準備

です。緯糸は杼（ひ）と呼ばれる道具を使って織っていくのですが、それもダンボールで作ることが出来ます。織るものの幅より二センチくらい長く作ります。形は写真を参考にしてください。杼に緯糸を巻き付けるときは、たくさん巻いてしまうと厚みが出て織るときに経糸に引っかかるので注意してください。

裏

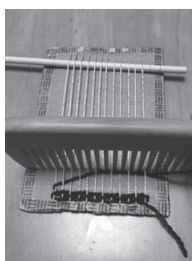
表



経糸と緯糸の準備が出来れば、いよいよ織り始めることが出来ます。織り方は経糸一本と緯糸一本を交差させるように織る平織りで織っていきます。

櫛で下ろす

杼に緯糸を巻く



緯糸を経糸に交互に通したら櫛かフォークで緯糸を下に下ろします。次の段も緯糸を交互に通しますが先

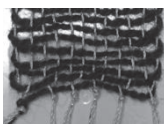
ほどの段とは逆に交互になる様に通して下におろします。それを繰り返していくことで布ができていきます。織りはじめと織り終わりの緯糸は五センチほど残しておき織り終わったら経糸と一緒に結んでください。ほつれを防止するためです。

出来上がりの大きさまで織ることが出来ると機（はた）を裏に返し経糸を切ります。経糸は真ん中を切ってください。

経糸を切る

経糸を結ぶ

模様を織る



切った糸は二本か三本ずつ結びます。緯糸が緩まないように織った緯糸のぎりぎりの所で結んでください。結び目から出ている経糸は房になるので、お好みの長さに切り揃えれば出来上がりです。

経糸も緯糸も毛糸など少し残ってしまった糸を使って作ることが出来ます。また着なくなったTシャツなどを一センチ幅でひも状に切って緯糸にすることも出来ます。リメイクしたり残り糸を使ったエコで簡単に出来る織りは、小さなお子様からお年寄りまで楽しめます。

このように特別な道具を持っていなくても身近なもので織りを楽しむことが出来ます。慣れてくると色を変えて模様を作ることもできます。色んな楽しみ方が出来るので工夫して気軽に手織りに挑戦してみてください。

(河内木綿コットンクラブ)